

学際研究プロジェクト創成へのアプローチ

8月30日（水） 11:00-12:30 会場D（4階）

今、世界は、自然災害、地球温暖化、エネルギー問題、少子高齢化など、多くの社会課題に直面しています。これらの課題解決には、専門分野の知見では限界があり、様々な分野の知見を活かすという点で、学際的な取組や異分野間の協働がますます求められています。

学際研究や異分野間協働の更なる加速の必要性は自明となりつつある一方で、研究を推進するURAという立場で、どのように学際研究プロジェクトを創成し、発展させていくかといった取り組みへの具体的な方法は、各機関において模索している状況と思われます。学際研究プロジェクトとはどのように生み出されるのでしょうか？URAとして何ができるのでしょうか？学際研究のきっかけをどう作っていったらよいのでしょうか？どういった分野間での協働が今後考えられるのでしょうか？

本セッションは、学際研究や異分野協働の推進に携わるURAを対象として、課題設定から参加者探索、プロジェクト形成までの一連のスキームにおけるURAの役割や方法論について、現場のURA同士でノウハウや課題を共有することを目的としています。以下のURAの方々に、各機関における取り組みの事例や浮き彫りとなった課題等を紹介していただき、聴衆の皆様が抱く悩み解決のヒントとなる情報を提供したいと考えています。その後、講演者および会場の皆様と学際研究プロジェクトを推進するにあたっての「課題」や「方法論」について意見交換を行い、「学際研究プロジェクト創成にむけたURAの役割や取組」について議論を深めたいと思います。

- 講演トピックス1：学際研究や異分野横断研究創成の「場」の提供の紹介
藤井弘樹氏（電気通信大学・URA）：「U E C コミュニケーションサロン」
王 鴻香氏（長崎大学・主任URA）：「長崎大学頭脳交流ミーティング」
- 講演トピックス2：学際研究プロジェクトの創生に向けた学内支援制度の紹介
白井哲哉氏（京都大学・URA）

オーガナイザー

城谷 和代：神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部
特命講師（URA）

2011年春に学位取得後、公的研究機関にて研究業務に従事。2015年秋より神戸大学URAに着任。一通りのURA業務のスキルを身につけ中です。URAとしてできることはなにか、日々考えています。

オーガナイザー



寺本 時靖 : 神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部
学術研究推進部門 特命准教授 (URA)

学位取得後ライフサイエンスの博士研究員を努めた後、2009年から金沢大学でURAとしてのキャリアをスタート。科研費の支援や若手研究者の支援、大学の研究戦略立案支援など幅広い業務を経験する。またURA組織化にも関与する。

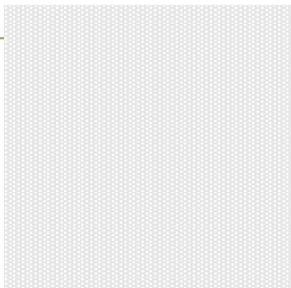
2014年に母校の神戸大学へ移籍。これまで大小200件以上の申請支援や企画、2つの大学の研究戦略に携わる。特にURA組織マネジメントと若手研究者支援、プロジェクト創生に興味を持っており、知識と経験を蓄積中。

講演者



藤井 弘樹 : 電気通信大学 研究戦略統括室 / IR室 URA

東京工業大学工学部卒。鉄鋼会社に勤務した後、大学職員として科研費、競争的資金、産学連携業務を経験。かながわサイエンスパークのインキュベーション・マネージャーを経て、2014年4月に電通大URA着任。研究力の分析・可視化、研究戦略立案、学内研究者の交流イベントの企画・運営などを担当している。2017年からIR室を併任。Strength of Weak Tiesを新たな価値創造につなげていきたい。



王 鴻香 : 長崎大学 研究推進戦略本部 主任URA

2014年4月にURAへ転身するまでの20年以上、大学、研究所や企業で、吸着技術を利用した化学装置の開発、新規無機吸着剤の合成の研究に携わりました。現在は、外部資金獲得支援、研究力分析、若手研究者支援に奮闘中。北京大学大学院化学系修了、理学博士。



白井 哲哉 : 京都大学 学術研究支援室 (KURA) URA

2006年岡山大学院自然科学研究科修了 理学博士。2006年京都大学生命科学研究科 特任助手、京都大学人文科学研究所 特定助教を経て、2012年より京都大学学術研究支援室 (KURA) URA。研究者時代の専門は、生命科学・生命倫理・科学コミュニケーション・科学技術社会論 (STS) ・科学技術ガバナンス。学際研究の経験とSTSの知見を活かして、研究現場の環境を改善したい。